BEETHOVEN
第九交響曲演奏会

●指揮　小林研一郎

*1973*年*12*月*25*日
7:00 P.M.
サンプラザホール

ごあいさつ

物情騒然たるなかに1973年が終ろうとしています。この20年間の〝成長と繁栄〟は幻想であったかと疑いたくなるような昨今、人心の荒廃もまた明らさまにされようとしています。

〝私たちの第九〟を歌おうとY.W.M.（Young Women and Men's）合唱団連合が発足したのは、まさにこんな今なのです。プロ合唱団あり、アマチュア合唱団あり学生合唱団あり、一見不可思議な寄合世帯ですが、指揮者小林研一郎の統率の下にヤングの情熱をかたむけて、O Freunde！と呼びかけます。

何の物質的利益も目的とせずに、人間の連帯を謳い上げることが、今日こそ可能となるでしょう。しかし私たちはこの連帯を今日の演奏会だけに終らせまいと希ってやみません。みなさまとともに、Fredeの輪 をより一層ひろげませんか!?

Y.W.M.合唱団連合

指　　揮　小林研一郎
オーケストラ　新交響楽団

Symphony No.9 in Dminor　　L.V.Beethoven
交響曲第九番ニ短調 作品125　ベートーベン
合唱付

第1楽章　アレグロ・マ・ノン・トロッポ
ウン・ポコマエストーゾ　ニ短調

第2楽章　モルト・ヴィヴァーチェ　ニ短調

第3楽章　アダージョ・モルト・エ・カンタービレ
―アンダンテ・モデラート

第4楽章　プレスト　導入部、アレグロ・アッサイ
ニ長調　変奏曲形式による
独唱と合唱

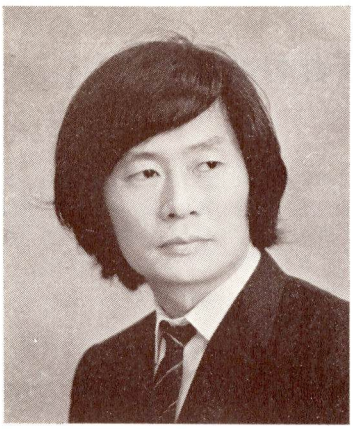
独唱　瀬山　詠子
末　　芳枝
川村　敬一
芳野　靖夫

合唱　Y.W.M.合唱団連合

《新交響楽団》

純然たるアマチュアオーケストラで、サラリーマン、学生、主婦など音楽を職業としない120名の団員で構成されている。昭和31年創立。芥川也寸志氏の指導により、現在日本で望み得る最高レベルのアマチュア・オーケストラとされており、42年訪ソ旅行、44年沖縄、九州演奏旅行のほか、各地での演奏会を行なっている。この19、21日の両日に第26回定期演奏会を行なった。

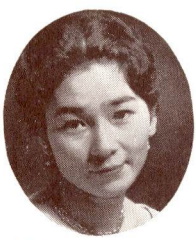
指揮者　小林研一郎（こばやしけんいちろう）



東京芸術大学作曲科及び指揮科を卒業。指揮を山田一雄、渡辺暁雄氏に、作曲を石桁真礼生氏に師事。民音指揮者コンクールに入選。1972年5月〝ショスタコヴィッチ交響曲5番〟ほかにより東京交響楽団を指揮して正式にデビュー。また、本年7月と9月の東響特別演奏会では各誌に絶賛を得た。

東京交響楽団指揮者、新交響楽団指揮者、Y.W.M.合唱団連合ほか多くの合唱団の指揮者を兼ねている。

豊かな音楽性と指揮の華麗さに定評があるが、とくに後者は抜群の運動神経（短距離、三段跳び、野球、スキー）に根ざすものといわれている。



瀬山詠子（せやまえいこ）
ソプラノ

東京芸術大学卒業。畑中良輔、畑中更予氏に師事。1956年「フィガロの結婚」のケルビーノでデビュー。1959年以来1971年までに8回のリサイタルを開いている。その都度、日本初演の曲（メシアン〈ハラウイ〉石桁真礼生〈鎮魂曲〉ヒンデミット〈マリアの生涯〉）を発表。1967年に中西賞を受けた。

創作オペラ、室内歌劇場によるオペラにも数多く出演し、また現代音楽の分野でも活躍している。　二期会々員



末　芳枝（すえよしえ）
メゾ・ソプラノ

武蔵野音楽大学卒業、同専攻科修了。ヘッサート、佐々木成子氏に師事。1968年渡欧。ウィーン国立音大に入学、ヴェルバ氏等に師事した。国際フーゴー・ヴオルフ・コンクールに入賞。1972年7月、73年10月にリサイタルを行なった。二期会準会員



川村敬一（かわむらけいいち）
テノール

東京芸術大学卒業。同大学院修了。高田三郎、渡辺高之助、中山悌一氏等に師事。1971年オペラ〝こうもり〟のアルフレッド、〝ホフマン物語〟のナタナエルを歌っているが、現在までコンサート分野での活動が多くシューベルト、シューマンなどのドイツ歌曲を発表している。
二期会準会員



芳野靖夫（よしのやすお）
バリトン

広島大学卒業。東京芸術大学修了。1960年モーツアルトのレクイエムでデビュー。1968年～69年にかけて西ドイツに留学。デットモルト音楽院でヴァイセンボルンに師事。その後再渡欧し、ヨーロッパ各地で、世界のマエストロと共演し、現在日本で多忙な演奏活動を行なっている。オーケストラとの共演の他コンサート歌手としても活躍。プフイッツナー歌曲によるリサイタル、シューベルト〝冬の旅〟〝白鳥の歌〟によるリサイタルを行なっている。　二期会々員

《Y.W.M.合唱団連合の自己紹介》

●東京フラウエンコール

昨年末デビューしたばかりのプロ女声合唱団です。定員15名。平均年令24才のヤングウィメン。今日までにすでに4回リサイタルを行なっています。この22日にも〝邦人による女声合唱名曲シリーズその2〟を小林研一郎指揮で歌ってきたばかりです。少人数ながら全員音楽にかける情熱のかたまりのようで、いろいろなステージ、ＴＶ、録音等に出演しています。乞御声援！

●早稲田大学グリークラブ

早稲田大学グリークラブの母体は、明治時代にさかのぼり、以来60有余年何よりも歌うことの好きな多くの先輩達の努力によってはぐくみ、育てられてまいりました。３年前には、西ドイツ演奏旅行、イスラエルのチムリア合唱祭に招待され、昨春は第３回世界大学合唱祭に日本代表という栄誉を担い、１ヶ月間のアメリカ国内演奏旅行を行なってまいりました。100余名の部員はよりすぐれた音楽創りに、メンタルハーモニーをモットーに日々練習に励んでおります。

●武蔵野合唱団

武蔵野合唱団「けやき」はその名の通り、武蔵野に生まれ育ち今年で創立18年を迎え、この秋にはベルディのレクイエムを演奏することができました。18年を振りかえると、多くの困難や障害がありましたが、幸い良き指導者に恵まれ、周囲の暖かい御支援により今日に到っております。なかでも現在常任指揮者の小林研一郎氏は、その豊かな音楽性と、人間味あふれる人柄により団員の心をとらえまさに我々にとってかけがえのない存在であります。

合唱を通じて、愛と感謝の気持を持つこと、それが「けやき」のモットーです。

●独協大学混声合唱団

私たち独協大学混声合唱団が〝第九〟を歌うのは、今年で３回目となりました。私たちは、今までに、「メサイア」、「モツレク」、「フォーレク」、「フランクのミサ」、「ケルビーニのレクイエム」など、数多くの宗教曲を、また「水のいのち」、「心の四季」などの合唱組曲を小林先生とともに歌ってまいりました。私たちの合唱団がこれまで発展してまいりましたのも小林先生のおかげと、感謝しております。私たちは、これからもがんばっていくつもりです。

●東日本薬科大学合唱連盟

私たち東日本薬科大学合唱連盟、通称薬唱連は、共立薬科大、昭和薬科大、東北薬科大、明治薬科大、星薬科大の５つの薬科大学からなる合唱連盟で、外から刺げきの少ない単科大学なので、お互いに交流をはかり、歌の心あるいは薬学について、人生について語りあう、そんな気の合った仲間たちです。

年に一度の夏合宿、そしてコンクール（薬唱連大会）に、お互いの技術向上を目指して、忙しいながらもみな一生懸命がんばっています。

●武蔵大学合唱団リーデルクランツ

部員総数50名。私たち武蔵大学合唱団リーデルクランツも年とともに混声合唱団としての形能をととのえつつ、新たなる発展を期しております。まだまだ未熟な合唱団ではありますが、これからも「歌うことの楽しさ」、「歌の心」を大切にしながら日頃の練習に励んでまいります。

そして、今宵の演奏にも全力でのぞんでいきたいと思います。いつの日か、私たちの心にすばらしい感動としてよみがえることを願って……。

1973年12月25日

（以上入稿順）

マネージメント　町村諭美（389)2755